

ラグビーワールドカップ2019まちづくり特別委員会調査報告

本特別委員会は、平成27年6月定例会において、ラグビーワールドカップ2019開催都市にふさわしいまちづくりに関する事項を調査するため設置され、「市民を盛り上げること」、「アクセス」、「外国人を含むおもてなし」の3点について先進地視察を通じて調査を行った。

「市民を盛り上げること」については、執行部から、小学生の英語の学習状況やラグビー教室、ラグビー場の試合での実況中継の導入などの説明を受け、委員から、「高校選抜ラグビーなどの試合を小中学校の課外授業で見せられないか」、「幼稚園児くらいまで年齢を下げてラグビーボールに触る機会を設けたらどうか」、「持ち歩けるルールブックや50音順のラグビー用語集を発行したらどうか」、「列車やバス、タクシーにラグビーや、ワールドカップ熊谷開催のラッピングができないか」などの提言を行った。

「アクセス」については、執行部から県道熊谷館林線について県への要望状況等について説明を受け、委員から、「歩く人たちのことを考え、会場からの最短距離の歩道を整備し、歩く人たちに飽きさせないような工夫を凝らした安全で楽しい歩道が整備できないか」、「駅から会場までの道筋に休憩所やトイレを整備する必要がある。」などの提言を行った。「外国人を含むおもてなし」については、執行部から、案内看板の作り変えやボランティアの検討状況などの説明を受け、「ボランティアやイベント参加の呼びかけだけでなく、イベント案を募集したらどうか」、「小中学生に教力国語での挨拶を学ばせたらどうか。」などの提言を行い、調査を終了した。

地方創生調査特別委員会調査報告

本特別委員会は、平成27年6月定例会において、地方創生に関する事項を調査するために設置された。調査に当たっては、平成28年3月に地方版総合戦略として位置付けられ、策定された「人口ビジョン・総合戦略」について、執行部から説明を受けた。これを受け、委員会で協議を行った結果、「自治体の稼ぐ力・やり抜く力」を地方創生に係る取り組み課題として位置付けを行い、宮城県仙台市や愛知県蒲郡市等先進地視察を通じて、個別事項について調査を行った。

まとめとして、本委員会において、これまで、視察等を通じ、課題解決に向けて取り組んできたが、全国ご当地うどんサミット2017の熊谷市での開催決定および3年間の開催権獲得の知らせは、取組課題「自治体の稼ぐ力・やり抜く力」の解決、熊谷市が稼いで生き残っていくための、またとないチャンスの到来である。うどんサミット開催に当たっては、会場予定地である熊谷スポーツ文化公園を本市の重要な誘客のツールとして活用するとともに、うどんのまち熊谷をPRし、地域資源である小麦の消費拡大を図っていかねければならない。そのためには、3年間のうちに必ず優勝しなければならない。熊谷うどんとして、どういうメニューで大会に臨むのか、各方面から知恵を出し合い、オール熊谷の体制で取り組み、やり抜いていたように提言を行い、調査を終了した。



前回の会場の様子

議会改革特別委員会調査報告

本特別委員会は、平成27年6月定例会において、議会改革に関する事項を調査するため設置され「予算・決算委員会」、「市民に開かれた議会とするため」について調査を行った。

「予算・決算委員会」では、決算審査の開催時期等、様々な視点から協議を行ったが、意見集約までには至らず、時機を見て検討課題とすることの結論に達した。

次に「市民に開かれた議会とするために」では、市民に開かれた議会のためには、きめ細やかな情報発信が必要ことから、メール配信サービス「メルくま」を活用し、一般質問の詳細情報を新たに発信することとし、インターネットでの議会中継では、モバイル端末からも視聴可能とした。

また、このテーマの先進地視察として、愛知県犬山市において「議会改革について」、京都府綾部市において「日曜議会について」視察を行い、議会改革の生の声を聞き、見識を深めた。

最後に、「政務活動費の公開」については、平成28年度に支給された個人分、会派分について収支報告書、内訳書及び領収書の写しをホームページで公開するとともに、事務局窓口では、ホームページで公開する内容に加え、添付資料の写しも公開すべきであるとの結論に達した。

以上で、各検討項目について結論が出たことから、調査を終了した。



愛知県犬山市での視察